



改訂増補 心理療法・失敗例の臨床研究
一その予防と治療関係の立て直し方一

岩壁 茂 著
金剛出版
2022年6月 310頁
本体価格 4,200円+税

「失敗は成功の母」は英語では「Failure teaches success」となるが、さまざまな事柄において上手くいかなかった失敗が教訓となり、改良・改善へと導かれる。心理療法や精神療法では治療者は最善を尽くして介入を行っているものの、図らずも思うような治療効果が得られないだけでなく、不本意な中断に至ることは少なくはない。そこで、治療的介入が上手くいかなかったことを受け入れつつ、その事象を冷静に観察するとともに、さまざまな視点から見直し、諸報告から得られた知見から学ぶことは大切である。

本書では治療的失敗の原因をセラピストとクライアントのあいだで起こるプロセスとして捉え、治療関係を修復し、クライアントが必要としている面接プロセスを作っていくための方策を示している。その構成は3部からなり、第1部は治療的失敗の理解の基礎、第2部では失敗の分類とその事例、第3部は失敗への対処とセルフケアが論じられている。

第1部では失敗（の重さ）の4つの次元（最低限の失敗、面接プロセスを阻害する失敗、恒常的な治療関係にも影響を与える失敗、クライアントに悪影響を与える負の効果）が示された。また治療関係の行き詰まりと関係する4つの要因（セラピストの失敗、三角関係、転移、治療作業を妨げるセラピスト個人の問題）について論じられ、失敗が次元化されることで、治療的失敗に関する精緻な解釈がもたらされる。

第2部においては失敗の原因を、i) セラピストの欲求、ii) 恥、iii) ミスマッチ、iv) 原初的傷つきやすさに分けて説明している。i) セラピストの欲求に関連して、『『他者を助けたい』という欲求が、さまざまな治療的失敗を生むこ

ともある』（p.101）として「rescuing（救援）」という概念が紹介されており、治療における双方向性を踏まえた対応が必要であると認識した。iv) 原初的傷つきやすさにおいては、クライアントの問題がセラピストの葛藤や人としてもつ根源的な問題が交差するときに生じ、提示された事例ではクライアントが自らを守るために治療の終結を申し出ざるを得ない経緯が描かれている。ここで治療的中断も自己防衛の方策の1つになることは示唆的である。

第3部では第7章（治療的失敗を防ぎ、失敗から学ぶ）の単一章からなる。そして、セラピスト側の失敗による治療関係の問題についての4つの指標（i) クライアントの感情的なかわりの減少、ii) 対人接触の変化、iii) 不満が間接的なやり方で表現されること、iv) 体調不良を訴えること）が示されている。iii) の非言語的表現の変化が治療関係に問題が生じた際、顕在化することについては日常臨床においても経験することでもある。本章で提示された大学院生の演習の授業でクライアントがセラピストに不満や怒りを訴えるというロールプレイを行った際に、セラピスト役の大学院生が、クライアントの気持ちをただ理解しようとして相手の気持ちに集中したとき、クライアントの気持ちがよくわかってきて、不思議なほど落ち着いて話を聞いたという逸話は印象的である。ここでは心理療法の成否にかかわる共感、支持、受容といったクライアント中心療法の関係三原則が関与している。

著者は失敗例に関して266本という論文（報告）を網羅的に挙げているが、そのなかでわが国からのものは19本であった。「Greenson（1967）は臨床家はどんな情報源よりも失敗から最も学ぶことが出来ると論じている」（p.16）とあるように、「最も」学べることとしての実践（失敗例）を知るうえで世界中の報告を参考にする姿勢は大切である。

あとがきで、米国の貧困地域の病院でのドロップアウト率が95%を超えている理由として経済的な理由を挙げており、治療を継続するための交通費がなく、電話連絡もできない事例から、治療的失敗について社会的側面にも留意する視点が必要であることを改めて認識させられた。失敗例から学ぶと共に治療からドロップアウトする方々に対してどのように治療を届けるかは地域の精神科医療を考えるうえでも大切な視点ではないかと思う。

（谷井久志）